

平成30年 第七管区 主な出来事

『海上保安制度創設70周年』及び『灯台150周年』関連

昭和23年5月1日に海上保安制度が創設され、平成30年は海上保安制度創設70周年を迎える節目の年でした。加えて、日本初の洋式灯台である観音崎灯台が明治元年11月1日に起工されてから150年を迎えました。この節目の年にあわせ、七管内各事務所においてPR活動や記念祝賀会、灯台の特別公開など多くのイベントを開催し、海上保安業務への理解をさらに深めていただくことができました。



記念祝賀会の様子



小倉駅JAM広場での『海上保安制度創設70周年』及び『灯台150周年』PRイベント(8月30日)



来場者: 約1,100名

関門海峡らいぶ館での灯台150周年特別展示(10月12日~11月11日)



来場者: 計2,480名

海上保安制度創設70周年記念 第七管区海上保安本部展示総合訓練(5月25日・26日)



来場者: 計1,735名(2日間)

灯台特別公開の様子



【関崎灯台】(大分県)

【六連島灯台】(山口県)

オリジナルフレーム 切手セット作成(佐世保)



七管初！通信事業者3社との 災害応急資機材搭載合同訓練(七本部・門司) 1月

1月19日、第七管区海上保安本部は、通信事業3社(ソフトバンク、ドコモ、KDDI)合同での災害時における応急資機材搭載合同訓練を初めて行いました。訓練は、災害で孤立状態となった沿岸地域や離島に応急通信を確保するため、巡視船で通信資機材を運送するという内容で、門司海上保安部所属巡視船くにさきにおいて訓練を行いました。この訓練は、海上保安庁と各通信事業者との「災害時における通信の確保のための相互協力に関する協定」に基づいたものです。



【訓練の様子】

夏季の海浜事故続発

7月・8月

夏季(7月1日から8月31日)に、七管区管内で発生した遊泳中の事故が例年同様に続発しました。今年の傾向として、海水浴場での発生割合が高いことが挙げられたことから、海水浴場の管理者・地方自治体・警察等と状況共有のうえ、連携し、事故防止策について協議するだけでなく、「注意喚起」の看板等の設置を要請するなど啓発活動を行いました。



大量覚せい剤密輸入事件(七本部・福岡) 5月

平成30年5月27日、第七管区海上保安本部及び福岡海上保安部は、福岡県警察、門司税関、麻薬取締部等の捜査機関と合同捜査を行い、海上ルートを利用した海外からの輸入貨物内に覚せい剤約100キログラムを隠匿のうえ密輸した被疑者7人を覚せい剤取締法違反等で逮捕しました。



北太平洋海上保安フォーラム多国間多目的訓練に 巡視船やししま派遣(本庁・七本部・福岡) 6月

平成30年6月4日~8日の間、韓国・釜山沖において実施された「北太平洋海上保安フォーラム多国間多目的訓練」に代表団と巡視船やししま(福岡)を派遣しました。同訓練は、北太平洋地域の海上の秩序・治安の確保を目的として、日本・カナダ・中国・韓国・ロシア及び米国の6カ国の海上保安機関が一堂に会し、各国間の連携・協力をより実践的なものとするため、毎年1回、各国持ち回りで実施されており、今回は韓国が主催し11回目の開催でした。



高速旅客船事故対応訓練(対馬) 9月

平成30年9月7日、航行中の高速旅客船が海洋生物らしき物体と衝突し、船内に多数の負傷者が発生したとの想定で訓練を実施しました。今回の訓練は、例年実施している実働救助訓練に加え、新たに「情報集約・共有室」を設置し、関係機関が一元的に情報集約・共有を図りつつ一体となって事故に対応するための手順や役割分担を確認するための訓練となりました。



大型クルーズ船事故対応訓練(福岡) 10月

平成30年10月4日、3年連続でクルーズ船の寄港回数が日本一である博多港において、入港隻数に比例して事故発生数が高くなるという危機意識から、クルーズ船誘致に関わる福岡市港湾空港局との共同開催で、昨年に引き続きで外国大型クルーズ船との実働訓練を実施しました。同訓練は、福岡に入港するクルーズ船の中でも最大の16万トン級のクルーズ船「オペーション・オブ・ザ・シーズ」で実施しただけでなく、避難者や負傷者役として同船の外国人乗組員10名や福岡市内の救急救命士専門学校から約50名の生徒にエキストラとして参加していただき、官民一体となった臨場感ある訓練となりました。



航空基地、福岡空港から北九州空港へ 移転に向けた工事着工(七本部、福岡航空基地) 10月

福岡空港滑走路増設事業に伴い、平成31年度末までに現在の福岡航空基地施設の明け渡しを求められたことから、代替施設への移転が必要となりました。各種検討・調整の結果、北九州空港への移転が決定し、10月11日から代替施設建設に向けた工事が着工しました。



平成30年7月豪雨への対応 (福岡・長崎・福岡航空基地) 7月

7月6日、福岡県、佐賀県、長崎県を含む西日本の各地に特別警報(大雨)が発令、豪雨による災害が発生したため、七管区では、同日「第七管区海上保安本部対策室」を設置し、巡視船艇・航空機等を発動し、捜索及び被害調査等を実施しました。また、福岡海上保安部所属巡視船やししまを六管区に派遣し、やししま搭載機及び福岡航空基地所属機動救難士による人工透析患者の吊り上げ救助や、長崎海上保安部所属巡視船でじまによる広島県三原市における給水支援等も実施しました。そのほか、海上漂流物に関する航行警報や海の安全情報を発出し、付近航行船舶等へ情報提供を行いました。



巡視船「でじま」給水支援の様子

6,000トン型巡視船の進水の儀(七本部) 11月

11月9日、山口県下関市所在の三菱造船株式会社江浦工場において、海上保安庁初となる新6,000トン型巡視船(公称「ヘリコプター2機搭載型」)の進水の儀が執り行われました。進水の儀では、海上保安庁奥島海上保安監や第七管区海上保安本部長をはじめとする七管区幹部職員等が出席し、支鋼切断(進水)が行われました。同船については、平成31年度内に海上保安庁へ引渡し予定となっています。



支鋼切断の様子



進水の様子